



平成30年
4月から

新たな国民健康保険制度が始まります 道民みんなで支える国保

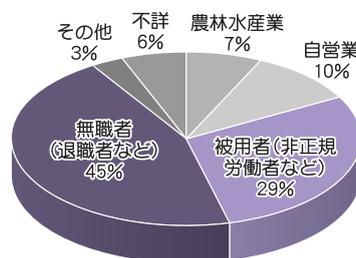
- 道民の1/4が加入する国保。
国民皆保険を支えるため、みんなで守っていきましょう。
- 道も国保の運営に関わります。
- 全道で同じ水準の保険料（保険料の平準化）をめざします。



【北海道国保の課題】

- 加入者に高齢者が多く、医療費水準が高い。
- 一人当たりの医療費が年々増加、平成37年には現在の約1.16倍の42.4兆円に。
- 所得の低い加入者（非正規労働者、年金受給者）が多く、負担が重い。

国保加入者世帯の職業（H27 北海道）



【市町村と道の新たな役割分担】

市町村の役割

これまでどおり、保険者の身近な窓口として業務を行います。

【新】納付金を道へ納める

- 保険料の決定・徴収
- 資格管理（保険証の発行など）
- 医療給付の決定・支給
- きめ細かい保健事業

道の役割

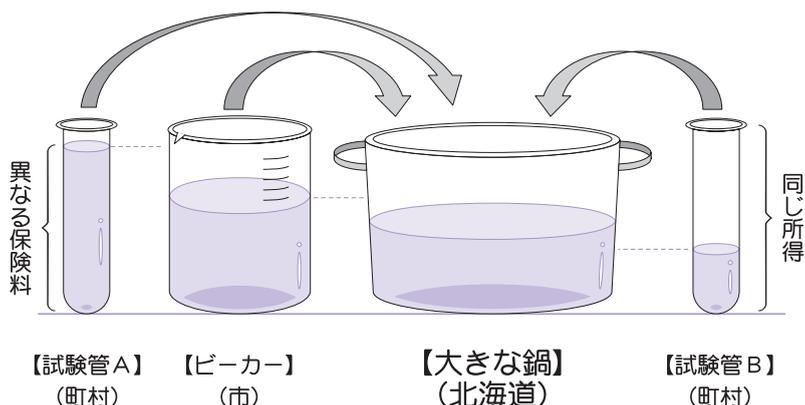
新たに国保の運営に加わり、安定的な財政運営の中心的役割となります。

- 【新】運営方針の策定
- 【新】保険給付の費用を市町村へ交付
- 【新】市町村ごとの標準保険料率を算定・公表
- 【新】事務の効率化・標準化・広域化の推進

【新たな国保制度の目的】

- 市町村で大きな差がある保険料を平準化し、全道で公平な負担に近づけていく。
- 市町村が抱える医療費増加リスクを、全道で分散させていく。

保険料平準化のイメージ



現在

- 容器の高さ(所得)が同じでも、水位(保険料率)が大きく異なる。
- 容器が小さい(ビーカー・試験管=市町村の規模)ので、水が少しでも増えると、水位(保険料率)が急激に上昇する。

〈保険料平準化〉 ↓ 〈リスクの分散〉

H30

- 大きな鍋(北海道)に移すと、水位は同じ(同じ所得なら保険料は同じ水準)。
- 容器が大きい(大きな鍋=北海道)ので、水が多少増えても、水位(保険料率)がわずかしか上昇しない。